

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700052		
法人名	社会福祉法人 昭寿会		
事業所名	福寿苑グループホーム		
所在地	熊本県阿蘇郡南小国町満願寺5861		
自己評価作成日	平成25年11月20日	評価結果市町村受理日	平成26年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設してから5年が経ち、1年毎に入居者の方の心身のレベルが低下していく中、看取り期を迎えられた方がここで家族と共に看取られたいとの意思の下に御家族と職員として支えて下った主治医の先生と共に初めて安らかで穏やかな看取りを行う事ができました。入居者の方がここが自宅の様に居心地が良く、安心して笑顔で住んで頂ける様に職員一同が一丸となり統一したケアに努めてきました。また、地域との関わりを大切に今年もイベントの参加や交流に努め、ご家族との時間を大切に記念すべきお誕生日会や苑内行事に御家族と共に過ごせる様にサポートしてきました。そして今年は4回地域住民に向けて「認知症サポーター養成講座」を開催することができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年に渡る法人の企業努力がホームに受け継がれ、地域にしっかりと根を下ろし、人々の信頼や行政の高い評価となって表出している。人口4千3百人ほどの山里で地域全体で高齢者福祉に取り組みたいとする姿勢は、外部講習による研修に同業者を招待したり、「認知症サポーター養成講座」の開催となって共存の道を歩んでいる。職員は入居者のホームでの生活がより主体性を持ち、これまでと変わらぬ暮らしの継続に視点をあて、趣味やこだわりの生き方を後押ししている。一昨年より取り組んできた。「看取り」本年度、本人や家族の思いに応え、支援できたことは職員の喜びや自信となり、ホーム内外の研修や「チャレンジシート」を自己向上の手段として更に研鑽に励んでいる。申し送りや会合は入居者の顔を見ながら開催

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・全職員が理念を理解し、1日1回唱和し、その人らしく、ご利用者の想いが叶えられる様に穏やかな生活に繋げている。	開所当時からの理念はホームのケアの指針として数ヶ所に掲示されている。入居者一人ひとりのこれまでの人生を称え、「その人らしさ」を引き出しながら、「その人らしく」生活出来るよう地域の力を借りながら、共に支えあうという願いが込められている。午前中の申し送りも入居者の顔を見ながら行い、一体となってホームを形成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域のイベントの準備から職員が関わりながら参加し、地域の方との交流を大切にしている。	地域へ広報誌や推進会議を通じてホームの取り組みを啓発し、古くから伝わる様々な伝統行事に準備の段階から関わっている。正月行事のどんどやや芋煮会、夏の水祭り、大名行列など入居者に馴染みの行事参加は地域の一員としての立場を再認識し、生き活きと参加している。地域住民に向けた「認知症サポーター講座」は継続され、本年度、四回の開催に至っており、ホームの持つ機能を幅広く発信しながら、地域の信頼を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域住民に「認知症サポーター養成講座」を4回と開催し、認知症に対する理解を深める事に努めました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・偶数月に必ず開催し、ご家族の方や委員の方の参加して頂き、活動状況等の報告や意見を聞くことができました。	行政や地域代表者が参加する会議は定期開催が実現し、一人でも多くの家族に参加してもらいたいとするホームの取り組みが活かされ、毎回、4・5名の家族の協力が得られている。入居者の現状を伝えながら医療報告やヒヤリハットについて詳細に開示し、透明性を図り、感染症対策に消毒液の作り方を資料として準備するなど家族の要望にも応えている。会場となるリビングで参加者が入居者の様子を直接確認することで、内容の把握や意見の拡充にも繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進委員会には、介護保険の担当の方が必ず出席して頂きました。平成25年6月19日の九州厚生局からの実地指導にも立ち会って頂きました。	行政担当者の推進会への参加時には互いの情報を交換し、管理者は何かあれば電話でのやり取りや、直接行政へ出向き意見や指示を仰いでいる。昨年の実地指導ではこれまでのホームの取り組みが高く評価されており、職員の自信にも繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・当苑に掲げている「職員の行動指針」を常に職員の眼に入る様に掲示し、勉強会でも意識付けをしている。法人全体の苑内研修でも行っている。 玄関の施錠はしていない。	職員の「行動指針」は、理念と共にホーム内に掲示し、職員が振り返りの原点として大切にしている。身体拘束の弊害を職員はしっかりと認識しており、ベッドが難しくなったら畳に切り替え、入居者の行動を妨げない工夫と共に、センサーマット使用をプランに入れ家族と一緒に経過を見ながら支援する等、制限のない生活が日常となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体拘束防止と同様に「職員の行動指針」に掲げ、苑内研修も行っている。また、管理者は町の虐待防止対策連絡協議会の委員でもあり、関係者の方とも連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・GHの勉強会や法人全体の職員会議でも取り上げ、学び知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には丁寧な説明を行い、また御家族より不明な点等を尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会総会や運営推進委員会には、必ず意見や要望を尋ねています。また、ご利用者の方のアンケート(意識調査)をとり、参考にしています。	職員は家族会の席や面会時に入居者の現状を伝えながら、意見の引き出しに努力している。日々の関わりの中で入居者の思いを収集し、嗜好調査や意識調査には一対一でじっくりと聞き取り支援に反映させている。	嗜好調査や意識調査は入居者の意向を確認する機会として大いに有効であり、今後は質問内容を検討することで、更に入居者の思いが反映されるものと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月の勉強会や法人内の業務改善委員会の時に職員からの意見を聞き、改善できるところからしている。	ホーム内は普段から職員が自由に意見を言える環境にあり、出された意見や要望は月の会議で検討し、重要な案件は法人全体の会議に諮り協議されている。本年度は職員より法人から食事を運ぶ通路の整備や、日勤帯の時間変更などについて意見が上がっており、現在検討されている。職員は自身の目標を“チャレンジシート”に収め、管理者との年二回の面談時には自己評価と共に新たな目標を立てレベル向上の機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	・チャレンジシートの活用を継続し、半年に1回の面談を行い、現在の状況等を尋ね、意見や要望等も聞き、モチベーションが下がらない様に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・毎月の勉強会や苑内外の研修に積極的に受けて貰うように参加して貰っている。苑外研修報告には伝達方式で勉強会の時に他の職員に伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・昨年に引き続き、阿蘇支部の連絡協議会の役員をしていますので、研修会として当施設で行った「リスクマネジメント」の外部講師を招いての研修を開催し、50数名の参加がありました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人との関わりを大切に、コミュニケーションをとり、信頼関係を構築していくことから始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会時や電話での連絡時コミュニケーションを通し、何か困っている事や要望等をお尋ねし、信頼関係を構築することから始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居されてご利用の方ご家族の方から情報を得ながら、本人にどのような支援が必要なのかを見極めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・共に生活する中で本人の気持ちを大切に、できる事は見守りに徹し、できない事をサポートする事に徹し、信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族と過ごされる大切な時間をゆっくりと過ごして頂く為に、お誕生日会には居室で一緒に食事をして頂いている。また、面会が少ない方には、自宅まで送迎を行い、ご家族と過ごせる時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域のイベントでの参加をした時に馴染みの人との時間や面会時にゆっくり過ごして頂く様に努めている。また、行きたい所等があれば、ドライブ等にて支援している。	ホームは入居者が地域へ出て馴染みの人々と再会する機会を大事にしており、様々な支援が実現している。入居者の誕生日には家族の都合に合わせ、昼食または夕食と一緒に祝い、外泊や散髪のための毎月の帰宅など家族との関わりを重視している。百歳になっても好きな手芸を日課としたり、新聞を隅々まで読む方や、その日の献立を広告紙に書かれる方など、長年の習慣や趣味が活かせる環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・共に生活をしている内に一つの家族の様になってきている様に感じる。例えば、リビングに食事に出て来ていない方がいらっやると心配されたり、寂しがったりしながら自然に支え合う様な関係になってきている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了になっても、今までの関係を大切にお会いした時には現状をお尋ねしたり何か支援できる事はないか努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の想いや願いを把握し、意向に沿える様に努めている。職員間で情報の共有としてカーデックスの気づきや連絡事項を利用している。また、困難な事例にはひもときシートを活用している。	ホーム内はゆっくりと余裕をもって作られており、職員はリビングや居室、あるいは浴室での入居者との会話からホームでの暮らし方の意向を引き出している。表現が難しい方にも顔の表情や身体の動きから推察しプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・フェイスシートの作成時にご本人やご家族から情報収集を行い、スタッフ間で共有し、ケアに繋ぎ込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご本人やご家族から情報を得、日々の生活の観察を行い、現状の心身の状態や残存能力等を把握する事に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人やご家族から意見や要望を聞き、想いを大切に介護計画を作成している。特にアセスメントを重要視し、それぞれの意見を頂きながら、立案している。また、状態が変更した時は必ず変更している。	センター方式により入居者の思いや行動を詳細に分析し、プランに繋いでいる。計画作成担当者は新たに入った入居者の過去の情報や現状を照らし合わせ、原案を作り職員と共有しながらプランを立てている。一冊のカードックスに全入居者のプランを収め、職員が必ず目を通しながら三か月ごとに評価し、半年を目途に新たなプランを立案している。記録の書き方についても担当者がその都度指導を行い、文章表現にも力を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の様子やケアについてはケース記録に記入している。また、気づきや申し送りはカードックスに記入し、職員間の情報の共有とし、介護計画に見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・いつでもご家族と過ごせる様に柔軟な対応をしている。また、必要時訪問診療が受けられる様な体制ができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域でのイベントや地域交流会の参加、実習生の受入、地元の小学生との交流が多くなり(訪問)また老人会の方との交流(定期的)を大切にしながら日々の生活の楽しみになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期受診(月1回)の他に専門科への受診時の送迎を行っている。かかりつけ医とは、受診不可の時には、往診に来て頂いたり、専門医への紹介状を書いて頂いたりと直ぐに対応して頂いている。	協力医による定期受診や往診が行われ、専門医も含め送迎はホームで支援している。また、医療機関で待ち合わせたり、運転が困難な家族の場合はホームから一緒に受診に向かうなど、家族が入居者の状況を把握できるよう可能な限り協力を努めている。職員は日頃から入居者との関わりの中で異常や変化を察知し、早期対応、受診に繋いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職員が気付いた時にすぐ看護師に伝え、対応している。GHの看護師が不在の時は、特養の看護師がフォローする協力体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、面会に行き状態を観に行っている。ご家族や病院関係者の方からの現状の情報をお尋ねしたり連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・昨年から「医療連携加算」を頂く様になり、重度化終末期の方を受け入れが出来る体制となり、ご本人やご家族からの希望で最期はここでと云う事で今年1月に初めての看取りを行い、ご家族と協同し穏やかな最期を看取ることができた。	入居時に看取りに関する説明を行い、希望される場合は同意書を受けているが、家族の思いは状況で変化するものであり、必要になった時点で医師と共にカンファレンスで確認を行っている。今年度家族の毎日の面会や協力医の支援、職員のチームワークによってお一人の看取りが行われている。看取りに関する法人内研修に参加したり、母体施設で経験ある職員もいるが、今後もメンタル面へのホローを教育の中で進めていきたい意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・毎年法人全体で「救急蘇生法」を阿蘇広域消防署から指導を受けている。また、急変時のや事故発生時の対応マニュアルを整備し、職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・今年3月の総合訓練では地元の消防団の部長さんが参加して頂き、訓練の様子を観て頂いた。また、今年近くを流れているいで川の水害を未然に防ぐために監視カメラを設置した。	年二回、法人の協力を得ながら、火災・自然災害避難訓練を実施している。消防署から訓練後、「慌てないこと」「出火場所に応じた避難を」などのアドバイスを受け次回に活かす事を確認し、備蓄として水・米・缶詰などを準備し有事に備えている。今年度ホーム近くを流れる河川の増水に対応するための監視カメラが設置され、推進会議や家族にも報告が行われている。	地元消防団長の訓練への参加や、近隣の旅館に水害時の避難場所を依頼するなど地域との協力体制も進んでおり、更なる協力関係の構築に期待が持たれる。また、他の介護施設の火災を教訓として、加湿器のフィルター掃除が定期的に行われており、今後は建物周りやコンセントの安全確認にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを守り、プライドを損ねない様に気を付けている。苑内研修の接遇で学び、職員一同十分に注意をしている。	プライバシーや守秘義務について研修会で共有を図る他、施設長は日頃から一人一人を尊重し、優しいケアの重要性や実践について指導を行っている。入室時のノックの徹底や夜間のみ使用されるポータブルトイレは、日中はクロスで覆われている。職員の温かなケアが息づいたホームは、入居者・家族・来訪者が安心して過ごせる場所でもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人の思いや希望が言える様配慮しながら雰囲気を作りコミュニケーションをとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご本人のペースに応じた日々の暮らしを大切にし、支援している。職員間でのご利用者の希望の情報を共有をし、その方の状態に応じて支援できる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出する時や行事等には、お化粧をしたり、おしゃれな洋服を着たり等が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・家庭菜園で収穫したミニトマトやキュウリやナス等を食事に入れたり、楽しみながら食事ができていた。準備に関してはお茶つきや食器拭きや台拭き、献立書きとそれぞれに役割を活かしながらできている。半年に1回嗜好調査をしている。	法人厨房で調理された副食を利用しているが、主食はホーム内で炊かれている。半年に一度行われる嗜好調査は、栄養部に報告し献立に反映させている。菜園の野菜も活用し、多くの食材を使用した料理は季節感に富み、盛りつけの工夫も入居者の楽しみとなっている。入居者が直接調理に関わることは少ないが、お茶の準備やテーブル拭き・毎食のメニュー書きなど役割をもって参加している。花が飾られたテーブルや使い心地の良い背もたれマット、好みに応じて使い分けのドレッシングやソースの準備など心配りが感じられる食事環境である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎回食事量や水分量のチェックをしたり、1人ひとりの状態に合わせた食事形態(ミキサー食や小刻み食等)や食器の選択等を対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食口腔ケアを行っている。自分では見守り、できない方は介助している。口腔のトラブルは、協力歯科医に相談している。また、法人全体での苑内研修でも「口腔ケア」について受講している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・1人ひとりの個別の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援をしている。なるだけ、オムツに頼らない様に自力でのトイレでの排泄が継続できる様に支援している。(本人のペースにあった声かけや介助の仕方)	個々の尊厳やプライバシーに配慮しながら、声かけ・誘導による支援、自立の継続など一人ひとりに応じた排泄を支援している。日中は居室のトイレや共用トイレでの排泄に取り組み、夜間は安全面や失敗のないようポータブルを使用される方もある。トイレは臭気もなく気持ちよく使用できるよう管理されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給や適度な運動に基本としている。朝のバナナヨーグルトや牛乳やオリゴ糖を継続し摂取して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・ご本人の体調や気分に合わせてながら入浴拒否の時は、無理強いせずには又の機会を選択している。入浴時には、音楽流しながら、温泉を楽しめる様にしている。	高齢化に伴い近年は一日おきの支援が中心であるが、介護度が高くても複数の介助でゆっくり湯船につかれるようにしている。脱衣所にはカセットデッキが設置され、演歌やクラシックなど本人の好みの音楽を流し、職員と会話をしながら楽しい温泉入浴に取り組んでいる。	浴室内も掃除が徹底し清潔に保たれており、今後は窓の棚の物品も別場所に収納するなど工夫する事で、更に寛げる空間になると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室やリビングで自由に休める様に声かけをしている。夜間不眠時には、お茶等を飲みながらお話をしてリラックスして頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の内容がわかりやすい様にファイルに綴り、各職員が見やすい様にしている。管理は、看護師が行い、与薬はその日の担当者がご本人の顔と名前を3回確認して与薬する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・買い物やしたい時には、職員が車で連れて行き、自宅に帰りたい時には、ご家族と連絡し日程を決め車で送迎をしている。生活の中でできる事や楽しみなる事の支援ができています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・閉じこもりにならない様に天気の良い日にはドライブや散歩に出掛けたりしている。ご本人の希望に沿って、外出の支援をしている。	ホーム前の庭や法人敷地内で、季節の移り変わりを感じながら散歩や散策を楽しんでいる。また、法人のバスを利用し、買い物や杖立温泉のこいのぼり見学、大分の高塚地蔵尊の参拝に出かけている。正月の初詣は入居者の高齢化もあり参拝時期をずらし、暖かくなって出かけるなど恒例行事も状況に応じ取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で管理が出来る方は、自己管理してもらっている。自信のない方は、事務所の方で預かり、必要時いつでも使えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望があれば、いつでも電話ができるようにしている。年賀状や暑中見舞い等を自分で書ける方は出している。書けない方には、担当の介護職員が本人に代わって出している。担当者が定期的に近況報告や写真を郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングには季節のお花がいつも生けてあり、明るく清潔感のある空間と和室は掘り炬燵でゆっくりくつろげるように心がけている。玄関内外にベンチを用意し、浴室にも椅子を用意して居心地良く過ごして頂ける様に配慮している。	雪から顔を出す『福寿草』が表紙を飾るパンフレットには、ホーム内の空間がわかりやすく写真や絵で紹介されている。開設五年が経過しているとは思えない手の行き届いた共用空間を、職員は大切に日々の掃除や草花を飾りながら更に居心地のよいものになっている。新年を迎えるにあたり、入居者に師走や正月気分を味わってもらおうとボランティアによって飾られた手作り門松も印象的であった。心と身体が和らぐ空間は自然環境だけでなく、入居者・家族を支える職員の温かな心も加わっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングには食事用の椅子とソファ、和室には和室用のソファを用意したりと自由に共用空間を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、使い慣れたもの等持参される様に伝えているが持ち込みは少ない。ご本人が住みやすく居心地の良い様にベッドの配置や畳の活用等はしている。	どの部屋からも庭先や緑が眺められ、洗面・トイレ・収納付き三部屋や洗面・トイレなしのゆったりスペース五部屋が準備されている。ベッドの高さや安全に移動できるよう取り付けられた手すりなど、我が家にいるような環境が本人と共に、初めて訪れるものにもホッとするような気持ちになれる。趣味の小物作りや、テレビをつけたままで就寝される方など、本人の趣味や習慣を大切に居室支援が行われている。衣類の入れ替えは居室入口に掲示された担当者が中心に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室の名前やトイレの看板は、ご利用者の目線に合わせてわかりやすくしている。廊下やトイレや浴室は、手すりを設置し活用している。		